

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ハッピー志木駅前教室		2025 年 10 月 1 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	集団の時には部屋を人数に応じて変更して行っている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	状況に応じては職員を呼んで複数の職員で支援をすることがある。それぞれのお子さまの状態や取り組み方に合わせて、職員の配置を決めている。	職員の欠席が出て、支援が難しい時は利用者様に電話をし別日に振替を提案するなど職員に余裕がない。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	転んで怪我をしそうな所にはカバーをつけたりしているため部屋や通路は安全を確保できている。文章だけでなく、イラストなども用いて、わかりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	毎日清掃を行い、特に汚れが目立つ箇所は重点的に行う等、教室内の清潔を心掛けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	個々に合わせて支援室を選び支援を提供している。	個別の部屋や場所を使うことはできていると思うが、その時の教室の運営状況や部屋によっては困難場合もある。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	上長からの指示のもと、目標達成に向けて職員全員で意識して追客をしたり、積極的な振り替えの促しをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者様からの意向を取り入れ、よりよい環境改善に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	職員会議や集団の会議を通して職員の意見を把握したり、時々業務の遂行状態を確認することにより一人ひとりが無理なく働けるように努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	第三者評価は行っていないが、年に1回自己評価結果を公表し、業務改善に努めている。	本社の規定に従う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	3	社内で様々な研修が用意されており、自己研鑽できる環境が整っている。	対象ではない研修には、参加することができない。広い範囲で参加ができることを希望している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	一人ひとりにあった支援を提供しFBする中で、新たな発見があったらそれを支援の中に取り入れるなどして支援向上に努めている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	保護者様にご意見やニーズを伺いながら、職員間で検討し、お子さまに寄り添った内容で支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	目標を決める段階から複数職員と相談し、共通の理解のもと検討会を実施することができている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	個別ファイルで保管し、いつでも確認できるようにしている。また、個別支援計画に沿ってねらいを考え、支援を実施することができている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	共通したアセスメントシートと活動記録で確認共有できている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	5領域の研修を受けている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	集団の内容に関して、参加のお子さまに合わせてチームでプログラムを検討して計画を立てている。	

	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	集団の内容は年間計画を基に、スモールステップで内容を変更して提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	保護者様の意向やお子さまの状況に応じて、部分的なペアなども取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2	集団の内容に関しては、職員会議時にその月の内容や目的、進め方を共有し行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	終礼時にお子さまの共有時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	記録に残したり、終礼で共有をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	日常の支援の中で、FB時都度情報を共有し対応している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	児童発達支援管理責任者と、理解の深い職員で参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	保育園、幼稚園などと連携はできている。地域連携がとれるよう営業を行っているが医療機関、教育機関との連携は薄いと感じる。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	園訪問をおこない情報共有をしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	就学支援引継ぎシートなどを用いて小学校との連携を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	4	2	市役所や保健センター等の行政機関と情報共有を行っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	7	連携で訪問の際にお子さまの様子を見る場面はあるが、利用されていないお子さまと関わる機会はない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	FBの時間を設けている。必要に応じ面談の時間も確保している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	2	オンラインでの家族支援の提供をしている。	外部講師を招いてペアトレを行ったことがあるが定期的ではない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	利用者負担や支援プログラム等については見学時に、運営規定については契約時に保護者様へ説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	個別支援計画作成の前にアセスメントを行い、お子さまや保護者様の意向を確認する機会を必ず設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	書面を用いて説明を行い署名をいただくようにしている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	FBの時間を設けている。個別支援計画を作成の時期には面談を行っている。また、それ以外でも都度面談を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6	イベント開催時は兄弟で参加ができる機会を設けている。	今後、保護者会などを行う計画を検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	お子さまの支援の裏などで家族支援として面談をする時間を設けている。面談希望があった場合には、迅速に対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	1ヶ月に1回はブログの更新を行っている。アプリを活用しイベントなどの情報も発信している。また、地域の情報を掲示している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	お子さまや保護者様と意思の疎通を図る為に、伝え方に配慮したりメモなどでお伝えする等の工夫を取り入れて対応している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	7	外部の関係機関の方の訪問は積極的に受け入れている。また連携先等、地域の方へ活動内容の周知を行っている。	今後イベントなどは検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1	掲示や閲覧ファイルにて共有している。	今後わかりやすいよう周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	業務継続計画を策定し、職員間で共有している。定期的に避難訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	アレルギーや服薬等を確認し、職員で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	アレルギー調査を行い、同意書を記入していただいている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	社内にて計画を統一し、研修や訓練を実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	掲示や閲覧ファイルにていつでもご確認いただけるよう設置している。	避難訓練で非常口からの避難の練習は行っているが、新規契約など避難訓練に参加が出来ていない利用者様に関しては、避難経路などを掲示しているが、口頭での確認などは行っていない。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	報告書の作成・会議にて再発防止の検討を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止研修を全職員が定期的に受講している。また、年に2回虐待防止チェックリストを実施し、虐待防止に関する意識を高めている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	1	虐待防止研修と共に身体拘束適正化研修を全職員が受講している。また、身体拘束が予測される場合は事前に個別支援計画に記載し、了承を得た上で支援を行っている。	